

血液透析患者の Osteoprotegerin

渡辺内科クリニック○斉藤浩次・樋下田美紀・御厨幸枝・渡辺幸康

【はじめに】 Osteoprotegerin(OPG)は tumor necrosis factor (TNF)受容体遺伝子のスーパーファミリーに属する分泌型蛋白(55KDa)で、破骨細胞の分化抑制因子として分離同定された蛋白である。OPG の発現は骨組織以外に正常血管・動脈硬化石灰化病変にも発現している。OPG は Receptor activator of nuclear factor- κ B (RANK) ligand のデコイ(おとり)レセプターとして RANK と RANK ligand の結合を競合阻害するように作用し、免疫システムの重要な調節因子として動脈硬化の免疫システムに深くかかわっていると思われる。Nittaらは透析患者の血中 OPG レベルと CT で測定した大動脈石灰化の間に有意な相関関係があると報告しているが、今回われわれは各種動脈硬化マーカーと血中 OPG 濃度との関連性を検討した。

【対象および方法】 血液透析患者(HD 群) : 66 例について、頸動脈エコー・ABI フォルム・大動脈弓石灰化係数(AACI)を測定し、一般血液・生化学検査、骨塩量、および ELISA 法で血清 OPG 濃度を測定し、動脈硬化マーカーとの関連性および生命予後についても検討した。

【結果】 HD 患者の血中 OPG 濃度は、単回帰で Max-IMT, AACI と正の相関を、骨塩量とは負の相関を示し、重回帰で AACI と相関を示した。また、AACI \geq 5.26%の群は AACI $<$ 5.26%の群にくらべて有意に血清 OPG 濃度が高かった。また、Kaplan-Meier 法での生命予後の解析では血清 OPG \geq 1184.2 pg/mL の群が $<$ 1184.2 pg/mL の群にくらべて有意に生命予後が悪かった。

【結論】 血液透析患者では血清 OPG は動脈硬化・血管石灰化の進展度および骨塩量と有意な関連性が認められ、生命予後とも関連することが示された。